



地域を見つめる経済情報誌

長野しんきん 北信地区経済動向



「すかい」(sky: 空)は、北信地区経済の空模様を展望しながら、経済面からとらえた身近な情報をおとどけます。

月例調査レポート



若里 犀川堤防道路
長野えびす講
煙火大会

「世につれて 花火の玉も 大きいぞ」(小林一茶 七番日記)
新型コロナ感染対策から、安茂里、若里、地附山、屋島の4カ所に分散しての打ち上げとなった今年の「長野えびす講」の花火。
例年のように河川敷を埋め尽くす人混みはなく、堤防道路からの花火見物も、ソーシャルディスタンスを保ちながらのものとなりました。

- 長野しんきん月例調査レポート…………… 2
- 企業アンケート 環境に配慮した企業経営 ③ …… 6
- インタビュー 変革期の経営ビジョン…………… 8
- 北信濃 江戸時代の風景(88) 安茂里…………… 10

「すかい」は長野信用金庫のホームページでカラーにてご覧いただけます [長野信用金庫 すかい](#)



概況 全産業

生産は3カ月連続の低下 前年同月比は8カ月連続の上昇

◇2021年9月の長野県鉱工業指数

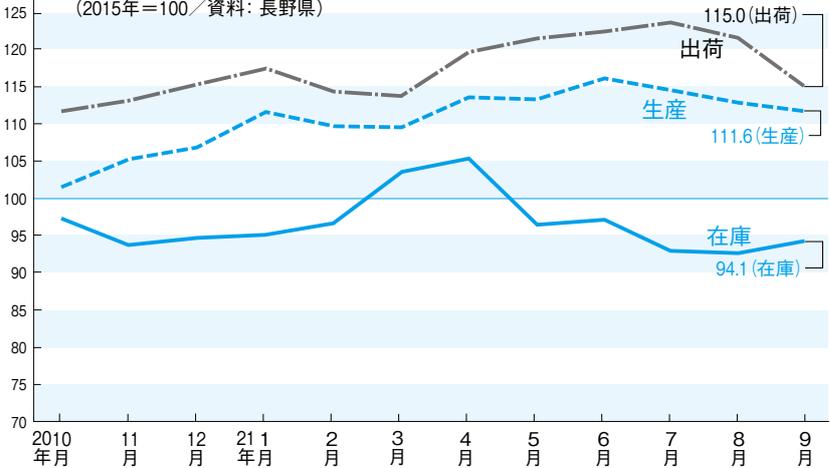
(速報：季節調整済指数)

生産は111.6(前月比▲1.2%)で3カ月連続の低下、出荷は115.0(同▲5.5%)で2カ月連続の低下、在庫は94.1(同+1.6%)で3カ月ぶりの上昇となりました。

◇前年同月比(原指数)

生産は114.6(前年同月比+12.7%)で8カ月連続の上昇、出荷は118.2(同+9.3%)で12カ月連続の上昇、在庫は89.7(同▲5.9%)で3カ月連続の低下となりました。

●長野県鉱工業の生産・出荷・在庫指数(季節調整済)の推移
(2015年=100/資料：長野県)



- [生産] 上昇…情報通信機械、電子部品・デバイス、電気機械など8業種
低下…輸送機械、はん用・生産用・業務用機械、食料品など9業種
- [出荷] 上昇…電気機械、電子部品・デバイス、情報通信機械など9業種
低下…はん用・生産用・業務用機械、輸送機械、食料品など8業種
- [在庫] 上昇…はん用・生産用・業務用機械、金属製品、食料品など9業種
低下…その他、電気機械、電子部品・デバイスなど6業種

月例調査

全産業の「売上高」は増加

前回調査 2021年9月

◇11月調査による[北信地区の経済状況]

全産業(不動産業・旅館業除く)の売上高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(37

%)が6ポイント増加、「減少」割合(29%)が5ポイント減少、「不変」割合(34%)は横ばい、全体としては増加の状況です。

●売上高(生産高・施工高)前年比「増加・不変・減少」割合

矢印は前回調査比 (3ポイント以上の動き) ↑ 増加 → 不変 ↓ 減少
改善 不変 悪化

業種	前回	今回	改善	悪化	調査対象数	回収率	30人未満	30人以上
全産業	31.5 ↓	37.1 ↑	34.0 →	29.2 ↓	203社	86.8%	74.0%	27.1%
製造業	42.6 →	37.1 ↑	30.9 ↓	26.5 →	68社	81.9%	61.8%	38.2%
建設業	36.5 ↑	37.1 ↑	33.3 →	30.2 ↓	63社	88.7%	90.5%	9.5%
卸小売業	30.4 ↑	37.1 ↑	37.0 →	32.6 ↓	46社	90.2%	80.4%	19.6%
サービス業	25.0 ↓	37.1 ↑	62.5 ↑	12.5 →	9社	100.0%	88.9%	11.1%
輸送業	11.1 ↓	37.1 ↑	33.3 ↑	55.6 ↑	9社	90.0%	11.1%	88.9%
外食業	75.0 ↑	37.1 ↑	12.5 ↓	12.5 ↓	8社	80.0%	37.5%	62.5%

製造業

食料品、金属加工品、一般機械、電気機械、自動車部品、精密機械

「生産高」食料品・精密機械が増加するも、全体は横ばい

製造業の生産高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(43%)が2割増加、「減少」割合(27%)が2割増加、「不変」割合(31%)が4割減少で、全体としては横ばいの状況です。

●生産高前年比「増加・減少」割合(%)

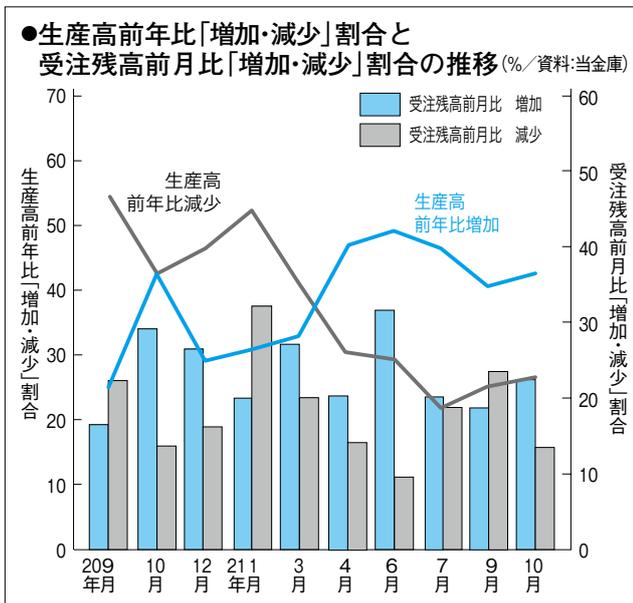
製造業	前回	40.6	34.4	25.0
	今回	増加 42.6	不変 30.9	減少 26.5
食料品	20.0	53.3	26.7	
金属加工	45.5	18.1	36.4	
一般機械	60.0	20.0	20.0	
電気機械	33.3	50.0	16.7	
自動車部品	40.0	20.0	40.0	
精密機械	80.0	0.0	20.0	

[業種別] 増加…食料品・精密機械
減少…金属加工・一般機械・電気機械・自動車部品

[機械稼働] (前回比) 稼働率 上昇
上昇割合 (25%) → 22%
下降割合 (17%) → 12%

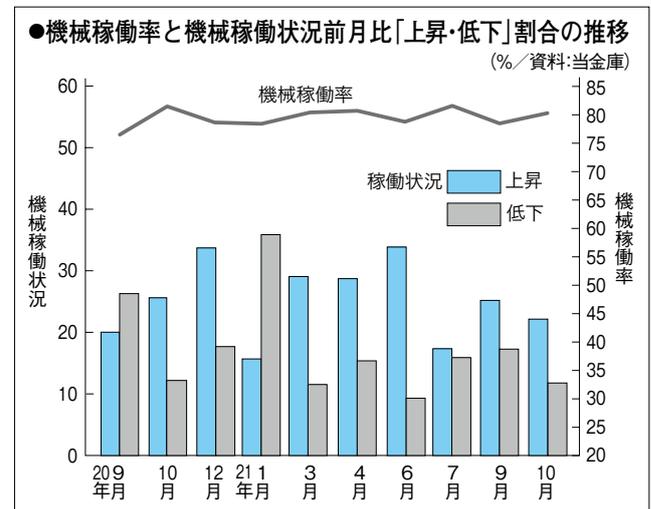
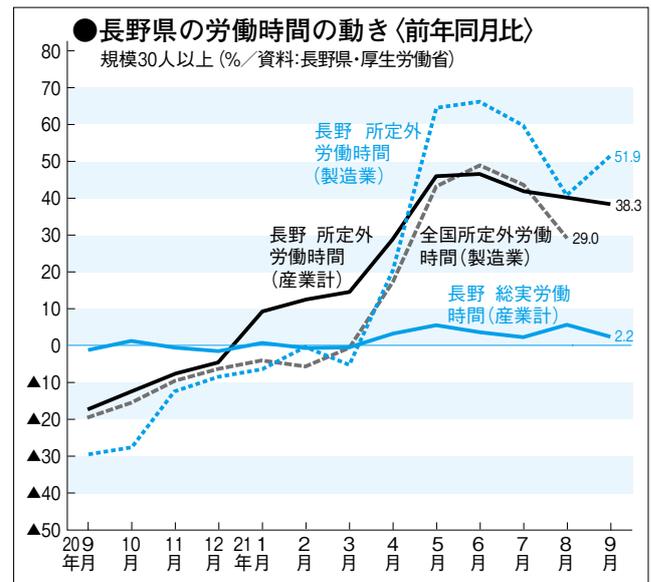
[受注状況] 受注量 (前回比) 上昇
増加割合 (19%) → 22%
減少割合 (23%) → 13%
受注残高 (1.6ヵ月) → 1.6ヵ月

[受注基調] (前回比) 上昇
上昇割合 (20%) → 31%
下降割合 (23%) → 9%



企業からのコメント

- ☆コロナの感染者数が減少して人流が戻りつつあるからか、歳暮ギフトの受注が好調である。年末まで、この状況が続くことを願っている。(乾そば)
- ★原油の価格高騰で、包装資材と配送費が上昇して利益を圧迫している。(乾麺)
- ☆★コロナの収束が見えそうになってきたため、急ぎの注文が増加しており、対応が難しくなっている。(農産物加工)
- ☆★車載向け部品等は順調な受注状況であるが、自動車メーカーの減産による影響に注視が必要。(電子部品)
- ★中国の電力規制により、半導体の生産量が減少しており、供給不足がより深刻になっている。(制御盤)
- ★銅・鉄等の値上がりが続いている。その上、モーターが入って来ないため、納期が不透明になっている。(エアコンプレッサー)



建設業

総合建設、土木工事、建築、各種設備

「施工高」土木工事・建築が減少するも、全体は増加

概況

建設業の施工高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(37%)が5割増加、「減少」割合(30%)が4割減少、「不変」割合(33%)が1割減少、全体としては増加の状況です。

●施工高前年比「増加・減少」割合(%)

建設業	前回	31.3	34.3	34.4
	今回	増加 36.5	不変 33.3	減少 30.2
総合建設業		36.4	36.3	27.3
土木工事業		30.8	23.0	46.2
建築業		27.3	45.4	27.3
各種設備業		77.8		22.2 0.0

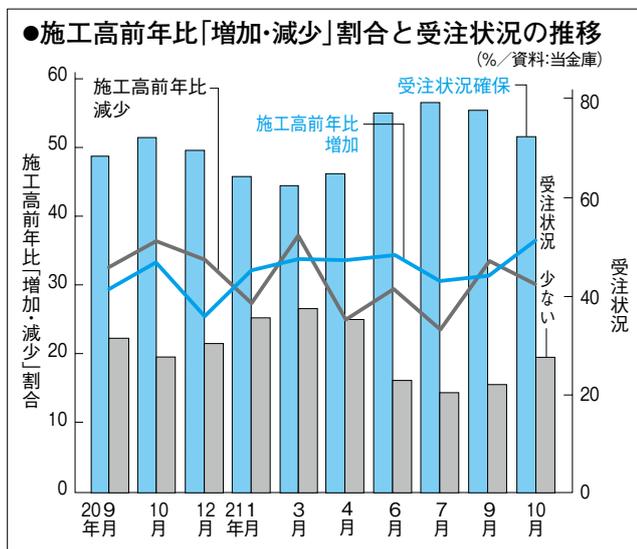
【業種別】 増加…総合建設・各種設備

減少…土木工事・建築

【受注状況】 受注残高(前回比) 減少

「多い・適正」割合 (78%) → 72%

「少ない」割合 (22%) → 28%



企業からのコメント

★業界にウッドショックの影響があり、物によっては資材等が原価の3倍にも高騰している。今後、どのように仕事を受注するか、年度末がどのようになるか不安である。(総合建設)

☆★リフォーム案件は増えているが、依然としてウッドショックの影響が大きく利幅が減少している。

★給湯器・トイレ等の大幅な納期遅れで、工期の予定が立てにくい状況にある。(以上一般建築)

4～10月の公共工事 (東日本建設業保証取扱分)

長野県の4～10月の発注合計は、1,756.8億円(前年同期比▲11.4%)となりました。前年比プラスは「国」の375.1億円(同+7.2%)、マイナスは「県」の504.2億円(同▲18.5%)、「市町村」の461.3億円(同▲18.3%)で、「その他」の410.6億円(同▲6.2%)でした。

北信地区市町村の発注合計は110.6億円(同▲28.9%)で、うち長野市は47.2億円(同▲42.8%)でした。

●建設業保証取扱分から見た長野県と北信地区市町村の公共工事の状況(2021年10月/2021年4月～10月累計)

(単位=百万円/資料:東日本建設業保証(株))

		2021年10月	前年同月比	2021年4月～10月	前年同期比
長野県	国	1,904	▲37.4%	37,509	7.2%
	県	4,835	▲37.9%	50,419	▲18.5%
	市町村	5,869	▲20.5%	46,135	▲18.3%
	そのほか	1,095	74.2%	41,063	▲6.2%
	合計	13,734	▲27.1%	175,677	▲11.4%
北信地区	市町村	1,790	▲4.9%	11,059	▲28.9%
	(内長野市)	1,207	19.0%	4,722	▲42.8%

4～10月の新設住宅着工戸数

長野県の4～10月の新設住宅着工戸数は7,392戸(前年同月比0.1%)でした。持家が4,514戸(同12.3%)、貸家が1,900戸(同▲5.0%)、分譲が973戸(同▲12.3%)、給与が5戸(同▲98.1%)です。

北信地区の4～10月の新設住宅着工戸数は2,148戸(同7.5%)でした。持家が1,242戸(同11.4%)、貸家が601戸(同17.2%)、分譲が304戸(同▲15.1%)、給与が1戸(同▲91.7%)です。

●北信地区と長野県の新設住宅着工戸数

(2021年10月/2021年4月～10月累計)

(資料:長野県)

		持家	貸家	分譲	給与	合計
北信地区	10月	178戸	140戸	23戸	0戸	341戸
	(内長野市)	117戸	80戸	19戸	0戸	216戸
	前年同月比	6.0%	137.3%	▲77.7%	—	3.3%
	(内長野市)	11.4%	128.6%	▲77.9%	—	▲4.4%
	4～10月	1,242戸	601戸	304戸	1戸	2,148戸
前年同期比	11.4%	17.2%	▲15.1%	▲91.7%	7.5%	
長野県	10月	666戸	387戸	120戸	0戸	1,173戸
	前年同月比	14.4%	43.3%	▲47.1%	皆減	8.6%
	4～10月	4,514戸	1,900戸	973戸	5戸	7,392戸
	前年同期比	12.3%	▲5.0%	▲12.3%	▲98.1%	0.1%

卸小売業

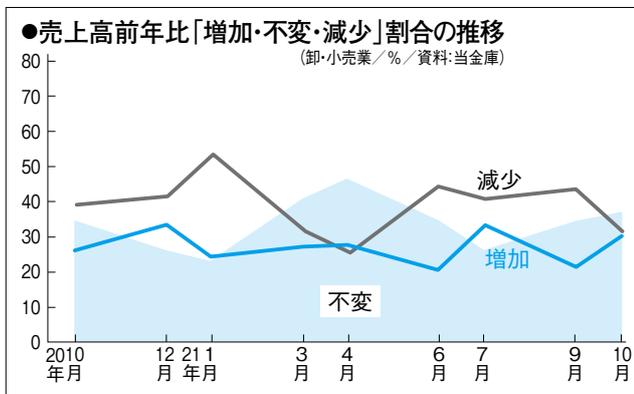
卸売業、小売業

「売上高」小売が減少するも、全体は増加

卸小売業の売上高前年比「増加・減少」割合は、前回に比べ「増加」割合(30%)が9割増加し、「減少」割合(33%)が11割減少、「不変」割合(37%)が2割増加し、全体として売上は増加の状況です。

●売上高前年比「増加・減少」割合(%)

卸小売業	前回	21.7	34.8	43.5
	今回	増加 30.4	不変 37.0	減少 32.6
卸売業		44.4	27.8	27.8
小売業		21.4	42.9	35.7



【業種別】増加…卸売業 減少…小売業

10月の消費者物価指数(長野市) 2020年基準=100

◇総合指数(確報値)……100.4(2カ月連続プラス)

(前月比+0.1%、前年同月比+0.7%)

上昇…「光熱・水道」「諸雑費」「被服及び履物」
「教養娯楽」

下落…「交通・通信」「家具・家事用品」「保健医療」

◇生鮮食品を除く総合指数…100.4(3カ月連続プラス)

(前月比+0.1%、前年同月比+0.8%)

企業からのコメント

- ★春先の暖冬が響いて、果物の品質はよくなく、りんごの贈答で売上を出すのは厳しい年になりそう。野菜は採れすぎて、単価が低迷している。(青果卸)
- ★☆部品不足による車の供給に遅れはあるが、顧客の購入意欲は以前に比べて回復している感じがする。(自動車販売)
- ☆コロナ感染者数の減少傾向で、参拝客は戻りつつある。一般客の購買意欲は低調だが、修学旅行の学生は購入してくれている。(土産品)
- ★コロナ感染者数が落ちつき、花鉢の巣ごもり需要は減少している感じがする。原油価格高騰の影響が少しずつ現れており価格は上昇している。(花鉢)

サービス業

サービス、輸送、外食、観光、不動産

「売上高」外食は増加、サービス・輸送は減少

サービス業 売上高前年比「増加」割合は13割減少の25%、「減少」割合は横ばいの13%、「不変」割合は13割増加の63%と、売上は減少の状況です。

輸送業 売上高前年比「増加」割合は14割減少の11%、「減少」割合は6割増加の56%、「不変」割合は8割増加の33%と、売上は減少の状況。タクシーは横ばい、運輸は減少です。

外食業 売上高前年比「増加」割合は55割増加の75%、「減少」割合は48割減少の13%、「不変」割合は8割減少の13%と、売上は増加の状況です。

観光(旅館)業 入込数は平均で前月比69割の増加ですが、前年同月比は18割の減少で、宿泊利用は伸び悩んでいます。

不動産業 需給状況は前回に比べ、「双方手控え・どちらも低調」が7割増加の40%、「引合いやや増加」が8割増加の30%でした。

企業からのコメント

- ☆首都圏からの個人客の客足が戻っている。12月から1月の予約も順調である。(観光ホテル)
- ★燃料価格が昨年対比で1.5倍近くになり、収益面で大きなダメージになる。(トラック)
- ☆コロナ禍において、地方への意識の高まりのせいか引き合いが増加。価格も下げ止まりがみられる。(不動産)

●売上高前年比「増加・減少」割合(%)

サービス業	前回	37.5	50.0	12.5
	今回	増加 25.0	不変 62.5	減少 12.5
輸送業	前回	25.0	25.0	50.0
	今回	11.1	33.3	55.6
うちタクシー業		0.0	100.0	
うち運送業		16.7	50.0	33.3
外食業	前回	20.0	20.0	60.0
	今回	75.0	12.5	12.5

「環境経営」や「SDGs」に取り組む際に、どのような支援策を望むか

「補助制度・支援制度等の情報提供」35% 「環境経営とSDGsに関する情報提供」31%
 「他社の先進的な取組み事例」23%

「SDGs」や「地球温暖化対策」に取り組むことをどのように考えるか

「社会貢献策として重要」45% 「企業イメージの向上」30% 「業種的にメリットはない」11%

「環境経営」や「SDGs」に取り組む際に、どのような支援策を望むか」を聞きました。

トップ3は、「補助制度・支援制度等の情報提供」(35%)、「環境経営とSDGsに関する情報提供」(31%)、「他社の先進的な取組み事例」(23%)で、ほかに「セミナー等の開催」「従業員教育への協力」

「専門相談員の派遣」が12%～4%、「別になし」は13%、「取り組む考えはない」は15%でした。

従業員規模で見ると、「取り組む考えはない」(30人未満16%)を除く7項目で、30人以上は30人未満よりそれぞれ1～15%高くなっています。

業種別

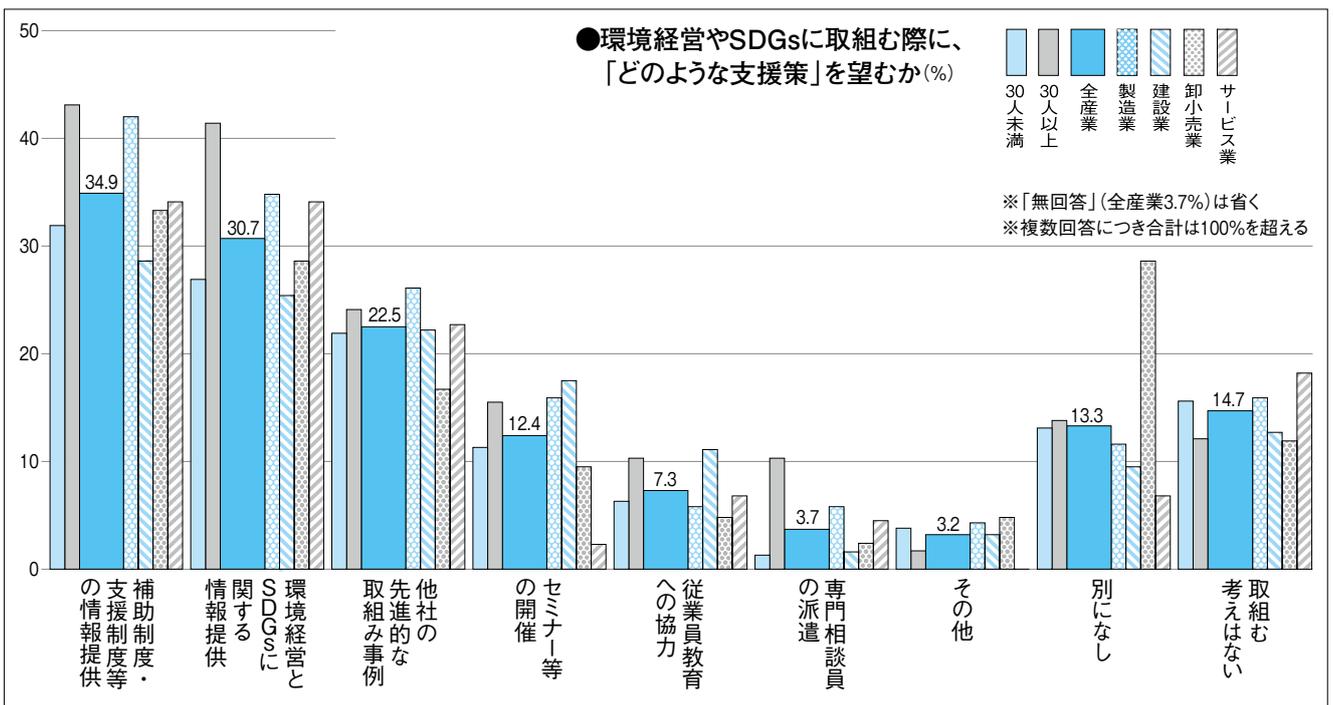
- 「補助制度・支援制度等の情報提供」 製造 42%～建設 29%
- 「環境経営とSDGsに関する情報提供」 製造 35%～建設 25%
- 「他社の先進的な取組み事例」 製造 26%～卸小売 17%
- 「セミナー等の開催」 建設 18%～サービス 2%
- 「従業員教育への協力」 建設 11%～卸小売 5%
- 「専門相談員の派遣」 製造 6%～建設 2%
- 「別になし」 卸小売 29%～サービス 7%
- 「取り組む考えはない」 サービス 18%～卸小売 12%

「環境経営とSDGsに関する情報提供」(35%)、「他社の先進的な取組み事例」(26%)、「専門相談員の派遣」(6%)の4項目が他業種に比べ最も高くなっています。

建設業 「セミナー等の開催」(18%)と「従業員教育への協力」(11%)が他業種に比べて最も高く、「補助制度・支援制度等の情報提供」(29%)、「環境経営とSDGsに関する情報提供」(25%)、「専門相談員の派遣」(2%)は他業種に比べて最も低くなっています。

製造業 「補助制度・支援制度等の情報提供」(42

卸小売業 「別になし」(29%)と「その他」(5%)



が他業種に比べて最も高く、「他社の先進的な取り組み事例」(17%)、「取組む考えはない」(12%)、「従業員教育への協力」(5%)が他業種に比べて最も低くなっています。

サービス業 「取組む考えはない」(18%)は他業

種に比べて最も高く、「環境経営とSDGsに関する情報提供」(34%)は製造業に次いで2位、「別になし」(7%)と「セミナー等の開催」(2%)、「その他」(0%)は他業種に比べて最も低くなっています。

「『SDGs』や『地球温暖化対策』に企業が取組むことをどのように考えるか」を聞きました。

「企業の社会貢献策として重要」(45%)と「企業イメージの向上につながる」(30%)の次に、「わからない」(14%)、「業種的にメリットはない」(11%)、「他企業との取引上必要」(8%)、「取組む考えはない」(7%)、「ビジネスチャンスである」(3%)と続く、多様な結果となりました。

従業員規模で比較すると、30人以上で「企業の社会貢献策として重要」(60%)が2割、**「企業イメージの向上につながる」**(35%)が6割、**「他企業との取引上必要」**(12%)が5割、それぞれ30人未満より高くなっています。

業種別

- 「社会貢献策として重要」 卸小売 55%～サービス 34%
- 「企業イメージ向上」 製造・サービス 32%～卸小売 26%
- 「メリットはない」 サービス 16%～製造 4%
- 「他企業との取引上必要」 製造 13%～建設・卸小売 5%
- 「取組む考えはない」 製造 9%～建設 5%
- 「ビジネスチャンス」 卸小売 5%～サービス 0%

製造業 「企業イメージの向上につながる」(32

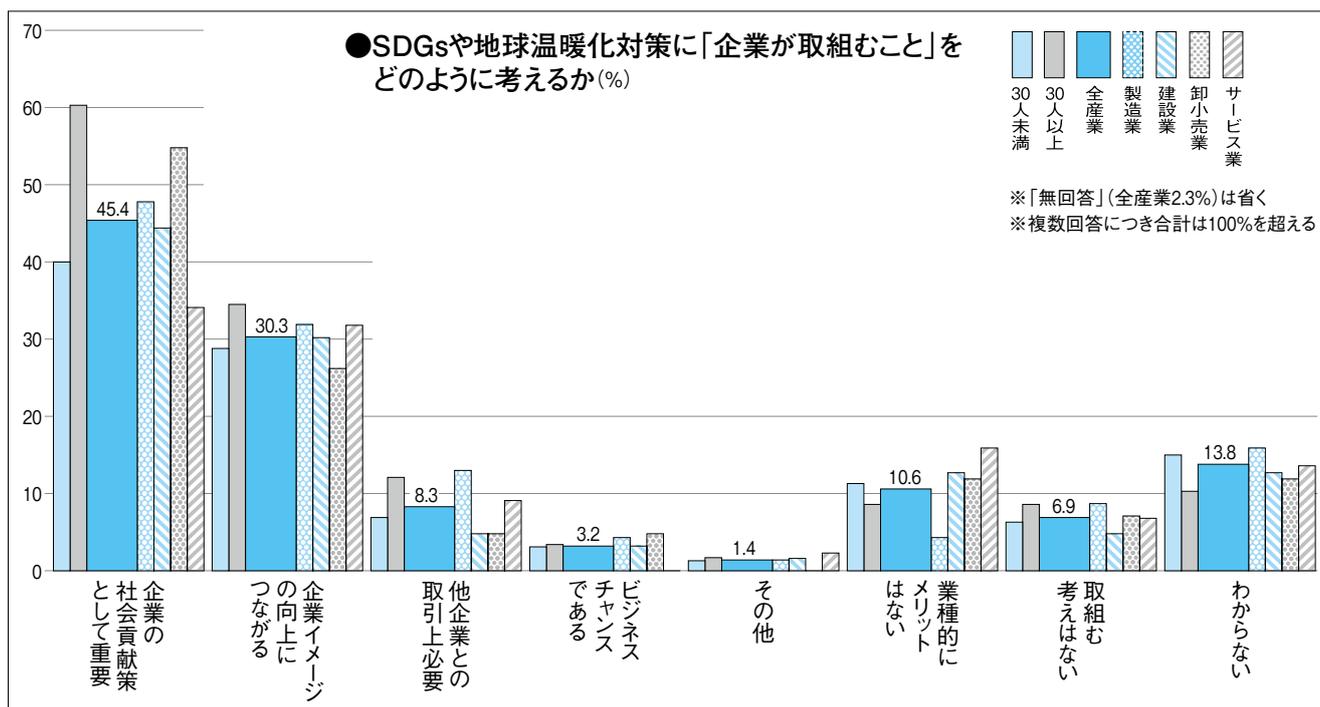
%)、「わからない」(16%)、「他企業との取引上必要」(13%)、「取組む考えはない」(9%)は他業種に比べて最も高く、「ビジネスチャンスである」(4%)は卸小売業に次いで高く、「業種的にメリットはない」(4%)は他業種に比べて最も低くなっています。

建設業 「他企業との取引上必要」(5%)と「取組む考えはない」(5%)は他業種に比べて最も低くなっています。

卸小売業 「社会貢献策として重要」(55%)と「ビジネスチャンスである」(5%)は他業種に比べて最も高く、「企業イメージの向上につながる」(26%)と「他企業との取引上必要」(5%)、「わからない」(12%)は他業種に比べて最も低くなっています。

サービス業 「企業イメージの向上につながる」(32%)と「業種的にメリットはない」(16%)は他業種に比べて最も高く、「社会貢献策として重要」(34%)と「ビジネスチャンスである」(0%)は他業種に比べて最も低くなっています。

◇次号は「2022年の経営見通し」を予定



お客様の“笑顔”が見える 商品づくりを目指して…

合資会社 高村商店
代表社員 高村秋光さま

●創業の経緯をお聞かせください…

1919(大正8)年、創業者である高村正孝が、冠着山(姨捨山)の麓の当地で醤油の醸造販売を開始したのが始まりです。戦後になってから味噌作りも始めましたが、当時は米の統制が厳しく、正規の配給材料のみで製造していたことから、量は少量に限られました。しかし地元では美味しい味噌だと評判だったそうです。この考え方は「地元の材料にこだわる商品作り」という高村商店の原点だと思っています。

1953(昭和28)年には、二代目で前代表者の高村元一が事業を法人化、本格的に味噌の製造販売を開始しました。

●社長になられた経緯をお聞かせください…

私は1979(昭和54)年、高村家の次女と結婚、高村商店に入社しました。当時は、まだ醤油の出荷量の方が多く、よく醤油の一斗樽を配達したものです。しかし地元の農家や問屋とお付き合いをしていく中で、徐々に味噌作りにシフトしていきました。現在では味噌が8割、醤油が2割といったところです。

2001(平成13)年に、義父から突然「社長にならないか?」と言われ、三代目の社長に就任しました。

私は小学生から高校生までずっと野球をしていました。大学に進学する際、野球部の監督から「駒沢大学から選手とマネージャーの推薦が来ているが、どうする」と言われ、マネージャーを選択し入学しました。当時の野球部は上下関係が厳しく、半数近くが退部しましたが、4年間耐えました。このときの経験が、商売をする上で活かされていると思います。

後輩には、巨人で活躍した中畑氏や西武で活



高村社長と看板犬のべこ(犬種：グレートピレニーズ)

躍した石毛氏があります。石毛氏には地元商工会主催の講演会で講師を依頼したりと今でも交流が続いています。

●事業の概要についてお聞きします…

地元産の原料を使い「地域の味噌蔵を売りたい」というポリシーのもと、昔ながらの旬の素材、国内産大豆のみを使って、じっくりと熟成させるこだわりの味噌・醤油作りをしています。代表商品で人気の味噌「棚田」の原料の大豆は千曲市産「ナカセンナリ」を使い、契約農家に姨捨の棚田で栽培していただいたコシヒカリを麴に加工し使用しています。棚田の米麴を使用している縁で、毎年6月の田植えと9月の収穫祭では、全国から集まる棚田オーナーの方々に味噌汁を無料で提供しています。

従業員には、「お客様の笑顔が見える商品づくりをしよう」と言っています。商品を送ったお客様から、感謝の言葉を数多くいただきますが、こんなエピソードがありました。東京のお客様が味噌の注文を忘れ、近所のスーパーで他社の味噌を購入し、味噌汁を作ったのですが、子どもから「いつもと味が違う」と言われ、すぐに当社の味噌をご注文いただきました。作り手としては嬉しい限りです。

商品は、店売りのほかに地元の飲食店や宿泊

施設にも卸していますし、学校給食にも使われています。また北信地区ではコンビニでも販売しています。

長野市の人気ラーメン店「らぁめん みそ家」と「みそらーめん専門店 みそ丸」は、開店当初から当社の味噌を使っていただいております。また、長野自動車道の「姨捨サービスエリア」の味噌ラーメンにも使われています。

社員のアイデアで、「味噌蔵カレー」や「味噌蔵パン」等の加工品も販売しています。甘酒は、2012(平成24)年から始まったJR東日本の「ナイトビュー姨捨」の運行の際に、姨捨駅でお客様に味噌汁をふるまった縁もあり、豪華寝台列車「四季島」で提供する商品に採用されました。

インターネットの普及とともに、当社もホームページを開設して、ネットでの通信販売を開始。現在、全国に約1万人の顧客を持つまでになっています。

●コロナ禍の影響や対応をお聞きします…

飲食業と宿泊業が深刻なダメージを受け、商品を卸している当社も影響を受けました。工場見学の団体客も激減しましたが、売上は前年対比で10%程度の減少に収まりました。それは1万人の通販顧客と地元のお客様がネット通販等で購入していただいた結果です。



味噌蔵たかむらの外観

●今後の夢や展望をお聞かせください…

私は、今年、戸倉上山田商工会の会長職を引き受けましたが、3年の任期満了になると71歳になりますので、そろそろ、息子に四代目をバトタッチする時期だと感じています。

飲食店の許認可もあり、妻と娘は調理師免許を取得していることから、将来的には商品を売るだけでなく、店で飲食ができるようにしたいとも考えています。息子には「キッチンカー」をやりたいという夢もあるようです。

お客様が当店の味噌を使った料理を食べ、「美味しいね!」という笑顔を見ることが、一番の幸せです。また、地元のお米やお酒と味噌のセット販売等もしていることから、地域の多様な食文化の発展に貢献していくことも重要だと考えています。



味噌蔵たかむらの店内

●事業の概要

創業 1919(大正8)年
資本金 40万円
代表者 高村秋光
従業員 15名(男5・女10)
業務 味噌・醤油の製造販売
事業所 千曲市大字羽尾1320
URL <http://www.misogura.co.jp/>

●沿革

1919(大正8)年 高村正孝が醤油の醸造販売を開始
1953(昭和28)年 高村元一が法人化し味噌醸造販売を開始
2001(平成13)年 高村秋光が代表に就任。
2018(平成30)年 豪華寝台列車「四季島」で提供する甘酒に採用される。

北信濃 江戸時代の風景



(88) 安茂里

長野郷土史研究会会長

小林 一郎

今年度は、江戸時代に善光寺門前で売られていた観光案内図「信州川中嶋古跡順道手引草之図」を、少しずつ切り取って紹介します。今回は長野市安茂里地区を中心とした部分です。右が北、左が南になっています。

善光寺西側の町

図の中央から下段にかけては、善光寺の西側の町です。左下に屋根が大きく描かれているのが大本願(浄土宗)で、その西側(上部)に「西ノ門町」があります。その「西ノ門町」と中央で交差しているのが「桜小路」で、現在の桜枝町です。「桜小路」を西に進むと、「立町」や「アラ町」(横沢町の南部)が左右に延びています。

裾花川

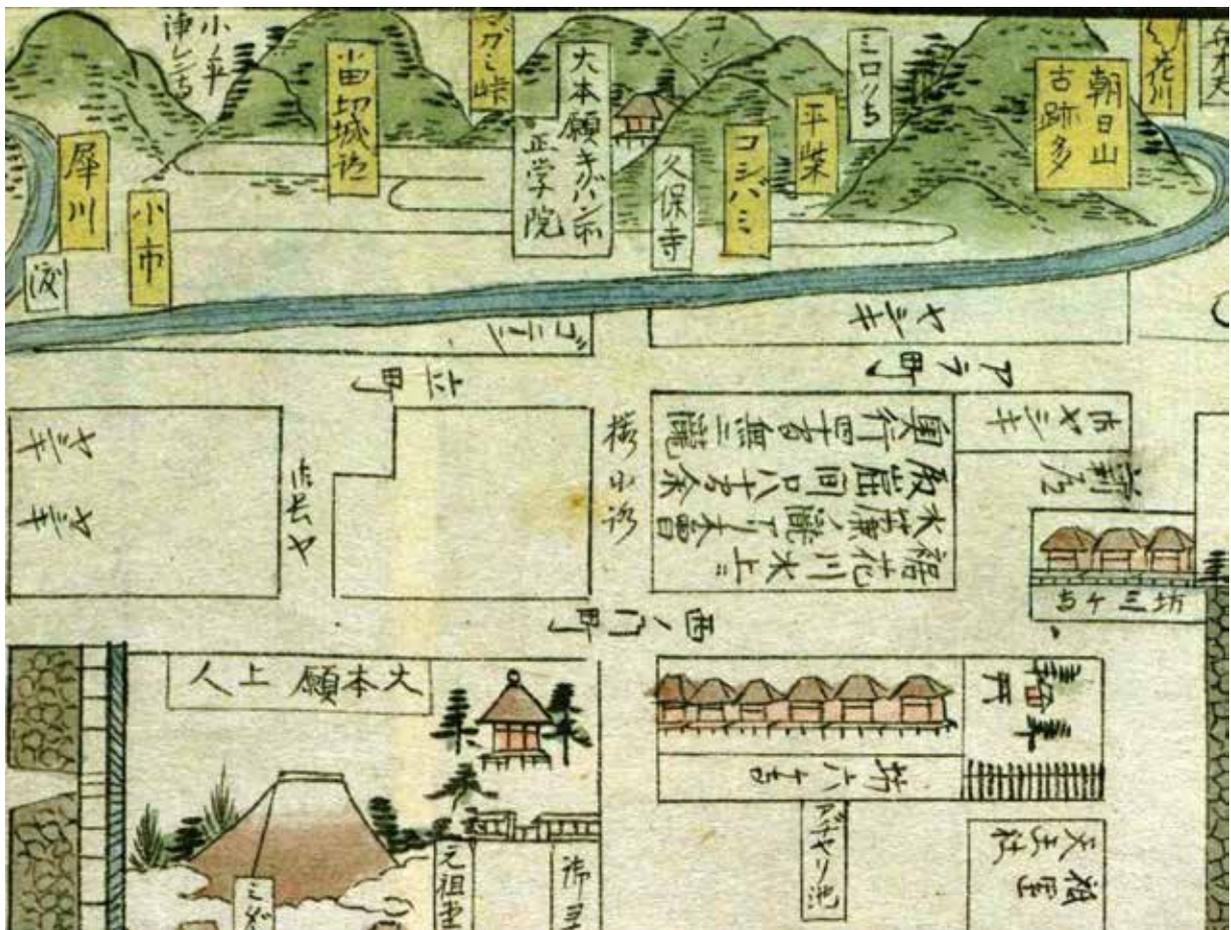
図の上部に左右(南北)に横たわっているのが裾

花川で、「□花川」と「裾」の字が欠けて書かれています。江戸時代には煤鼻川という表記が普通でした。しかし裾花川という表記も知られていて、善光寺参りに来た西行法師が、川に桜の花びらが流れているのを見て、「この奥に桜の里のあればこそ裾花川と人は言ふなれ」と詠んだと伝えられています。

現在は南に向かって流れて、丹波島橋の西で犀川に合流していますが、これは江戸時代の初期に人工的に造られた流路で、それ以前は県庁付近から東に向かって流れていました。

旭山

「□花川」の左に大きな山があって、「朝日山 古跡多」と書いてあります。「朝日山」は現在は「旭山」(標高785m)と書くのが正式になっていますが、かつては「朝日山」という表記の方が普通だったよ



「信州川中嶋古跡順道手引草之図」の一部(国立国会図書館蔵 扶桑探勝図)より

うです。

「古跡多」というのは、川中島合戦に用いられた旭山城跡ばかりでなく、ほかにたくさんの史跡があるからです。『朝日山名所案内記』という本が作られたほどです。同書によれば、岩だけでも、天狗岩、餓鬼岩、獅子が岩、観音岩、虚空蔵岩といったものがあるということです。

安茂里のなりたち

江戸時代の長野市安茂里地区には、平柴村、小柴見村、久保寺村、小市村の4か村がありました。善光寺領の平柴村を除く3村は、松代藩領でした。4か村は明治9年(1876)に合併して、安茂里村となりました。安茂里という地名は、「安らけく茂る里」という意味で、小市村戸長が名付けたと言われています。

新設の安茂里村はまとまらず、平柴村と小柴見村が間もなく分離独立しましたが、明治22年(1889)に再結成されました。安茂里村が長野市に合併したのは、昭和29年(1954)のことです。

平柴村

「朝日山」のある「平柴」村(長野市平柴)は、長野村、箱清水村、七瀬村とともに善光寺領の村でした。そのため「朝日山」は善光寺領の山で、北の大峰山とともに善光寺のお花山とされてきました。善光寺本堂の向拝に掲げられた高張提灯は、平柴村が奉納してきた歴史があり、現在も「平柴村」と書かれています。「ミロク寺」(弥勒寺)は、平柴村の集落名です。

「製紙王」と呼ばれた王子製紙社長の藤原銀次郎(1869～1960)は、平柴村の出身です。

小柴見村

「コシバミ」は、小柴見村(長野市小柴見)です。江戸時代には裾花川の渡し場があり、明治8年(1875)に橋が架けられて相生橋となりました。

久保寺村

「コシバミ」の次に、「久保寺」村があります。「窪



正覚院の入口付近

寺」とも書きます。安茂里地区の中部にあり、最大の村です。現在の安茂里大門が本郷で、差出、小路、西河原といった枝村がありました。

正覚院

「久保寺」には寺が描かれていて、「大本願キグハン所(祈願所)正学院」書かれています。これは正覚院の誤りです。真言宗の寺院で、藤原時代初期の作とされる県宝の十一面観音立像が、収蔵庫に安置されています。観音信仰の寺で、4月18日の縁日には近隣の人々が参拝に訪れます。

小田切城跡

山に「小田切城跡」と書いてあります。小田切氏の山城と伝えられているのは、小市の深沢城跡です。また松ヶ丘小学校の西には、小田切氏館跡が残っています。

小市村

「小市」村には、犀川の小市の渡しがありました。小市の渡しは、丹波島の渡しが増水で渡れない時も渡れたことから、多くの旅人が利用しました。小市は西山中に通じる大町街道が通り、また戸隠・鬼無里方面に通じる道もあって、交通の要地でした。また、馬市が開かれる村としても知られていました。

1月号は「松代」の予定です。

この頁は長野信用金庫のホームページでカラーにてご覧いただけます [長野信用金庫](#) すかい

◆ごみの減量について、どのように考えるか？

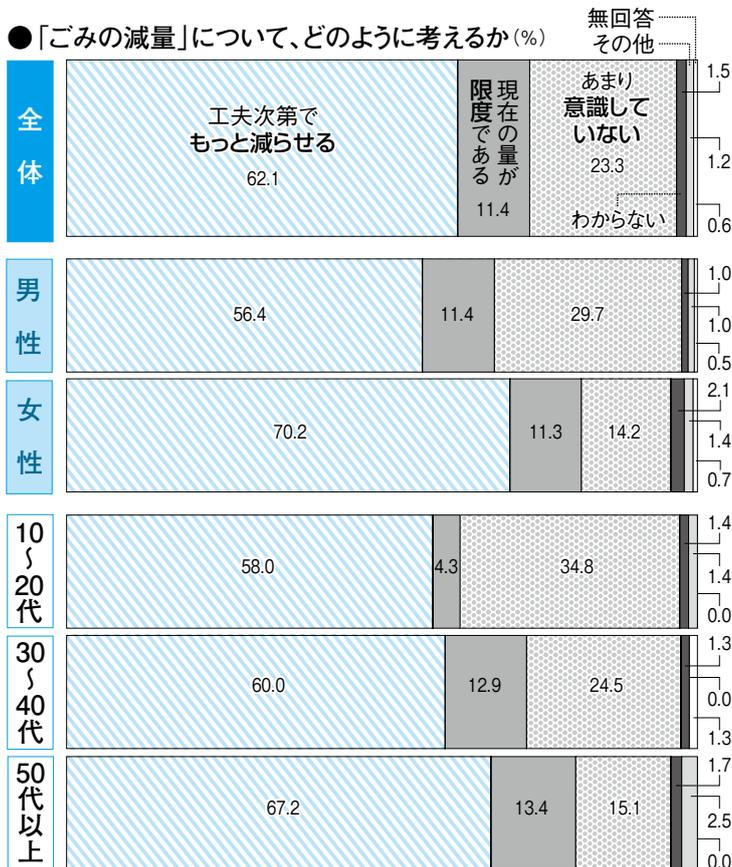
	全体	男性	女性
「工夫次第で減らせる」	62%	56%	70%
「現在の量が限度」	11%	11%	11%
「意識していない」	23%	30%	14%

「長野県民のごみ排出量（一般廃棄物）は1人1日当たり816gで、ごみ排出量の少なさで6年連続日本一となりましたが、ごみの減量について、どのように考えるか」を聞きました。

最も高かったのは「工夫次第でもっと減らせる」が6割を超え（62%）、「現在の量が限界」は1割強（11%）、「あまり意識していない」は2割強（23%）となりました。

男女別で見ると、男性の「工夫次第で減らせる」が56%、「現在の量が限度」は11%、「意識していない」は30%で、女性は同様に70%、11%、14%となり、女性の意識の高さがうかがえます。

世代別では同様に、10～20代は58%、4%、35%、30～40代は60%、13%、25%、50代以上は67%、13%、15%となり、世代に比例して意識が高い傾向がうかがえます。
 〈当金庫・2021年9月調査〉



●みなさまの税務相談のご案内 [1月]

(注)上の店名は開催場所、下の()内店名はその相談日に含まれる対象店です。

開催日	午前	午後	開催日	午前	午後
1月 6日	木 城北支店 (若槻支店)	柳原支店 (東長野支店)	1月 21日	金 更北支店 (松代支店)	伊勢宮支店 (石堂支店)
12日	水 大豆島支店 (長池支店)		24日	月 若穂支店	小布施支店 (中野支店)
13日	木 南支店 (七瀬支店)	吉田支店 (古里支店)	25日	火 大門町支店 (桜枝町支店)	善光寺下支店 (権堂支店)
14日	金 墨坂支店 (須坂支店・太子町支店)	飯山支店 (山ノ内支店)	26日	水 本店営業部	
18日	火 屋代支店 (稲荷山支店)	戸倉支店 (上山田支店・坂城支店)	27日	木 本 部	
19日	水 篠ノ井支店 (川柳支店)	川中島駅前支店 (川中島支店)	28日	金 本 部	

